

「令和7年度踏切道改良協議会合同会議（福岡県）」を開く
二日市6号踏切道（筑紫野市）の歩道設置、令和8年度着工を目指す



福岡県内の「二日市6号踏切道」等3件を協議した「令和7年度踏切道改良協議会合同会議」

九州地整局と九州運輸局等で構成される福岡県踏切道改良協議会は13日、「令和7年度踏切道改良協議会合同会議（福岡県）」を福岡市の九州地方整備局で開催した。国土交通大臣から認可を受けた「二日市6号踏切道」（筑紫野市）、「汐井掛踏切道」（須恵町）、「久保踏切道」（古賀市）に歩道設置や迂回路整備について協議し、早期着工を目指す。

冒頭、議長として挨拶に立った九州地方整備局道路部の永田哲也地域道路調整官は「踏切道改良促進法に基づき国土交通大臣が改良すべく踏切道を指定された箇所に対して、踏切保安設備の整備、踏切の廃止等の対策を実施してきたところでございます。踏切道における事故防止及び交通円滑化のためには、関係機関が連携し

様々な課題を解決していくことが重要と考えておりますので、本日は有意義な会議となりますように関係者の皆様方にはご協力をお願い致します」と挨拶した。



議長挨拶の永田地域道路調整官

令和4年12月に認可を受けた「二日市6号踏切道」（筑紫野市）は、県道筑紫野筑穂線と西日本鉄道の天神大牟田線が交差する踏切で、周辺には学校・病院・駅・住宅街があり、歩道が未整備で歩行者が車道を通行し、危険な状態であることから新たな歩道や誘導ブロック設置を計画。令和8年度に工事着手し、

令和9年度の完成予定となっている。

令和6年1月に認可を受けた「汐井掛踏切道」（須恵町）は、県道志免須恵線と九州旅客鉄道の香椎線が交差する踏切で、周辺には学校・駅・須恵町役場等があり、歩道が未整備で歩行者が車道を通行し、危険な状態であることから南側に新たな歩道設置を計画。現在、詳細設計を進めており、令和10年度に完成予定としている。

令和6年1月に認可を受けた「久保踏切道」（古賀市）は、市道花見松林線と九州旅客鉄道の鹿児島本線が交差する踏切で、歩道及び視覚障害者誘導表示が未整備であり、通行に支障をきたしている。今回は、別事業でJR千鳥駅東口のロータリー整備事業に伴い、駅構内の通行が可能で、エレベーターや視覚障碍者も円滑に通行出来る環境が整っている点から迂回路として整備を計画している。